栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 001
国立国会図書館

帝國圖書館藏

十

大正
3. 10. 2
購求

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 002

国立国会図書館

水引蟹　異品ナリ

頭上両鬚高ク起ル其尖リ即眼ヨリ然レハ鬚ニ非ス眼茎ノ長ク出ルモノナリ

猩々蟹

越前魚名浦産

此物網ヨリ上ル時ハ脚ハサミヲ置テ不動其状図ノ如シ濱沙上ニアレハ左右ニ脚ヲ伸テ走ル長崎ニ似タリ走ヨト遅鈍ナリ

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 003
国立国会図書館

蟳蟹　一名毛蟹　和名ツガニ　モクツガニ氏云

出寧波府志又臺湾府志云毛蟹生溪澗中螯生毛秋後甚肥美
此物山川深流ノ處ニ生ス秋八九月末流ニ下ル蕎麦花サク頃大雨アリ
テ水泝流ル、時タダノ下ルノ儘トス微毒アリ病人必食ヘカラズ金瘡ニテ筋ノ
斷タルヲ接續スルニ此黄膏ヲ用ユ此蟹甲ヲ破リ黄膏ヲ取土器ニ入陰
干シ細ホトニ乳汁ニ和シ疵ノ側ニ傅ヘシ又疵ヲ洗フ毎ニ傅ルヲヨシ
トス貝原翁試タル方ニテ大和本草ニモ説ヲ出セリ津蟹トカキテアリ
東都戸田川中川利根川ニ皆アリ又上水ノ長流水中ノ樋筧ノ内ニアル
コヲ聞ケリ伯州産ニハ此蟹ヲ用ユヘキナリ

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 004
国立国会図書館

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 005

国立国会図書館

澤層ガニ

相州小田原海中ニ産スコレヨリ大ナルモノアリ惣身毛アリ土泥ナド付テ至テムサキ形ナリ漁人モクゾウガニト云大ナルモノハ津蟹ト同シ

虱蟹　マメガニ

是沙狛ノ小者

蛤中小蟹潔白透徹与蛤肉俱食鬆脆淡美又奇品也

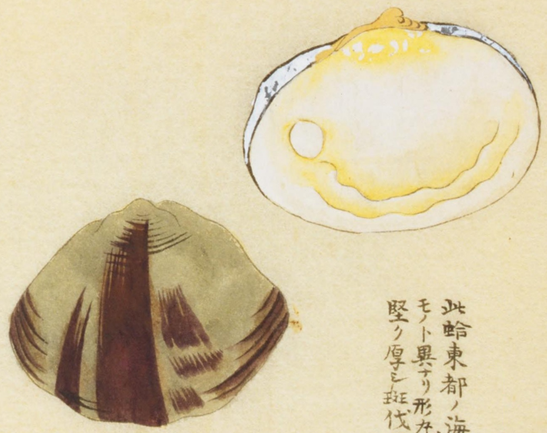
溪蟹

澤ガニ辰ノ五月十三日写ス関温泉アル處澤アル處ニアリ此蟹好テ蒲菜ヲ喫フ因テ此蟹多キ處ニテ刈サセヲ不作ト云此蟹火上テ焙食ハ味美ナリ又湯ニ作テ酒饌トス

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10-006
国立国会図書館

小蟹胎於蛤腹中者俗呼カニムグリト云土州宿毛産蛤中各孕小蟹方言サキツト云又薩州久見崎海中所産ノ蛤十中二六八腹中ニ小蟹アリ蟹トモニ煮食ハ味極テ美ナリ遠境ノ人甚コレヲ珍重ス其所産之海濱僅ニ方二町許之處ナリ其他ハ尋常ノモノニノ蟹アルコトナシ文化六己ノ臘薩州吉谷羽老侯本國ヨリ東國ニ輸致セシム同僚桂月池岡瑞ニ贈ラル其中一個ヲ分テ予ニ分恵ス剖開テコレヲミルニ内ハ痩タリト雖モ存活セルヲ新ニ今海中ヨリ拾取得タルモノト同シ煮味テ珍賞スルニ餘味感スベシ三四百里程ノ日數ヲ経テ來レルモノニ此小蟹モ亦活在ス一奇事ナリ後年遺忘心センヲ恐ル因テコニアリノマニ其事ヲ識シ同好君子ニ示スノミ

昌穢拙嶺南雜記云劍鮮腹有小蟹生肪述異記謂之筋取是也



此蛤東都ノ海中ニ産ルモノト異リ形先ニアリテ質堅ク厚シ斑紋モ赤如此

此小蟹圖ノ如ナル大サナリ背甲白キ三星アリ肚下紋所ノ姿文アリムキミノヒラミタル處ヲムスキト云ハカマ氏云其タスキノ薄キ皮ト肉トノ間ニ此小サキ蟹出入スロヲ開ク氏殻外ヘモ出テ遊フニヤ全体入ヘキ餘地ナキ處ナリ

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10-007
国立国会図書館

アブラ鮮蟹
海濱ニ生スカタチ石鮮蟹ニ
似テ甲薄黒ハサミムラサキ色
ナリ脚薄黄紫ノ斑紋アリ
毛モアリ

カサミ　ウミカニ
正字通曰長尺餘両螯至強曰蝻蚌
又云螯不毛後跪薄濶如櫂曰撥櫂

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10-008
国立国会図書館

マンヂウ蟹　九州ノ産ナリ関東ニ絶テナキモノナリ
手脚ハサミ折カゞメテ乾タルモノハ甲上ヨリハミ出ヅ平クシテマンヂウノ如シ
因テ名ノ下云

唐人ガニ　佐州方言

蟹譜曰蟹匡長而銳者
謂之螯

セミガニ
江ノ島海中ニアリ佐州ニテ唐人蟹ト云
甲堅ク光アリ千人捏ノ一種ノモノナリ

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 009
国立国会図書館

蘆虎　猩々ガニ　ヘンケイガニ

臺湾府志沙馬蟹色赤走甚疾
者即是
按本邦蟹集鮮中螃蜞アカガニ
亦此モノ、類乎
正字通云両螯赤不可食云尤虎

メクラガニノ図取　日出タガニトモイフ
甲戌三月十六日活物ヲ得テ寫ス

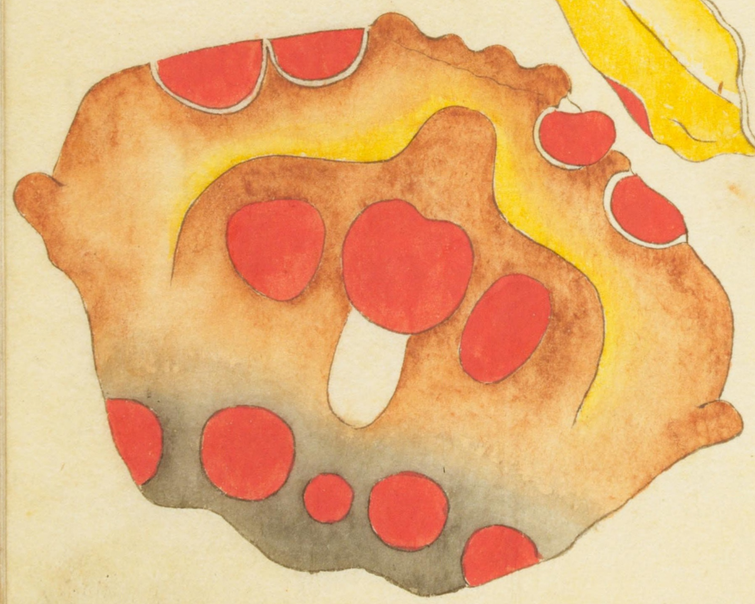
タクマヱビ

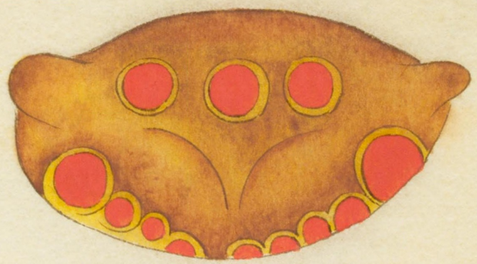
相州小田原方言　シツパタキ　其治者ヲ濱ニ上ルヤハ其尾ニテ沙石ヲハタキ飛ス數尺ナリ因テ
此名ヲ得ルト云　西國方言　ウチハヱビ

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 010
国立国会図書館

蟹甲　蚤産

晴川蟹錄引北戶錄曰十二點儋州出紅蟹大小殼上作十二點深臕脂色亦如鯉之三十六鱗耳其殼與虎蝛堪作墨子格物總論紫蟹殼似蝤蛑足亦有發棹子但殼上有胭脂斑點不比蝤蛑之純青色耳云〻





蚤産作酒杯而為珎奇

文化丁丑仲夏近藤正齋秘弄

醫學館藥品會呼排列也

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10-011
国立国会図書館

銀がニ　正字通云薄殻而小青白者
曰蟛蜞篠島ノ濱ニアリ

千人捏　閩書南志引宋志云千人擘状
如小蟹人力發之不開下云是也

招潮
正字通云殻色青白潮欲來出
穴拳螯迎之曰ー
尾州ノ知多ノ海邊ニ多シ方言
テンホカニト云

望潮
田打カニ左螯大ナルモアリ
汐干孔ヨリ出テ手ヲ挙テマネク形ヲナス故ニ望潮
マネキト云

藻がニ

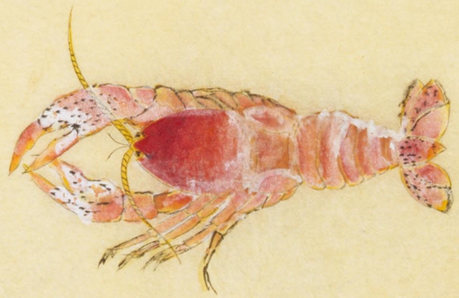
本名ハ蚓江本綱蟹集解ニ出

マメガニ
コブシガニ　筑紫方言

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10-012
国立国会図書館

蝲蛄

奥州南部津軽ノ谷川ニ多シ近来
蝦夷ニヌシ喜却行ス故ニサリカニト云



大ナルモノ右ノ図ノ如シ蝦夷地ヨリ活スルモノ已ノ冬月将來スルモノヲ見タリ冬蟄ノ時ハ遠方モテ來テモサノミ痛マズ春ニ至レハ多ハ殞モノナリ蝦夷方言ニヤリカニト云冬月蟄スルモノ肚中ニ白石一對アルモノアリナキモアリ是ヨクリカニキリ也

金銭蟹 セニガニ

小紋蟹トモ云ノ雅有ノ中ニ偶交リ上ル後脚平ニメ羽子ノ如シカザメノ脚ニ似タリ甲ノ左右ニ尖剌アリ乾野ヲ経年ナルモノハ甲黄白ニメ褐色ノ豹文ヲナシテ美ナリ此類ニ数種アリ

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 013
国立国会図書館

鬼面蟹 タケブンガニ ヘイケガニ シマムラガニ
長門豊前ニテキヨツネガニ
蟹譜曰背殻如鬼状
者眉目口鼻分布
明白常宝玩之
九州海中ニアリ西国ヨリ
関東ニ絶テナシ螯左右大
小アリ脚長ク四脚
ツキテアリ蟹类
多シト雖モ此モノ甚
異状ナリ乾柏モノ遠ニ
寄セ方物トメ
珍玩スルモノリ
臺湾府志所謂
鬼蟹状如傀儡者
即此物ナリ

尾州ニモ此蟹出ルアリオゾ
サガニ又オサダ蟹トモ云フ
コレ長田ノ庄司ヲ災化
スル由ヲ云フ平
家ガニトハ
唱ヘズ長州又字ケ関
海濱ニノミアリトイヘ共々
思フニ左ニ非ズ中国
ヨリ西海ニハマ・アルモノリ

長門國阿弥陀寺の什物にて平家の平家蟹の贋庵
園院大相國芙満仁作のよし
とうとし

嗚呼悲哉二界流転の業蹉河のかなた
そもそも苦海の波よ深きかな
憐愍〳〵〳〵元暦のいにしへといふ
あやまちをもちき浪花
と栄えたるもこれかんめんの一時の称
して年永僅ニ二十余年の寄
内ニ等りて終り東夷の武威
秋の一葉ふり掃さりて西海の波濤

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 014
国立国会図書館

海流の流ゝ多と云ゝ八
り比ゝも元暦二年の冬の比ゝ沈官軍有ゝ
軍小折屓てゝそゝくとて落塔の天をと
め月に雲一葉の漏雪小濱とう〳〵帆と漂泊の
浪りはもて豊前国柳ヶ浦よ着せまもいてまた
ゝ君義穂をもめのひゝ八官軍一先安堵の
おのひゝ松野せり斬まゝに三月廿二日とや思ふ
に能教義経会船教子小ゝ押寄せ幡旗と来風
小ゐるゝ矢と射る事雨のゝ〳〵楯楓のうもを
天ゝりるゝ〳〵鋭波の声海底と響うひされハ
公家武ハ逆流ともいくゝもも云に多ゝの世ゝ武士る

るゝけるゝも先帝の御ゝ新ゝ天ゝの龍ゝ
七ゝの重ゝおゝゝ官軍今ゝと浪りと防戦をゝいゝゝも
天運微ゝゝゝゝもゝ西ゝ打屓帝女院いまゝゝも龍
ゝゝ八今ハ是ゝまゝゝ二位の禅尼をゝ安徳天皇八方
のの者と招ゝいゝ元帝ゝ太の手ゝ実劔ゝ抜ゝゝ
海底ゝゝゝ入ゝゝ話ゝ百官十四年氏の公を一族も一ツ
流ゝゝ者と沿めゝの泡と府の号ゝ消ゝゝ給もゐき沿
ゝゝ者ゝ浪もゝゐおゝゝ支ゝゝの百官ゝ艦と化をゝる
事いゝゐまゝは別ゐ海路の戦ゝ七ゝ八御手ゝゝゝ暗
悪強情の恨ゝ消ゝゝ弘誓の船ゝ得ゝゝれ随
孫ゝゐの浪記ゝ八昔の海ゝ志川ゝ先悩の波瀾ゝ

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 015
国立国会図書館

草蝦　蝦夷地方ノ産

此モノ西蝦夷地ソーヤタヒシツンベニテ捕ル

拉姑一名哈食馬　清高士奇東巡日録　ナリガニ　ニナリガニノ略語ナリ

一名蝲蛄盛京通志

石鰕ト螃蟹不同形且小其黄附父不合疱瘡螃蟹横行石蟹退行此亦一異生於洞中

東医宝鑑

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 016

国立国会図書館

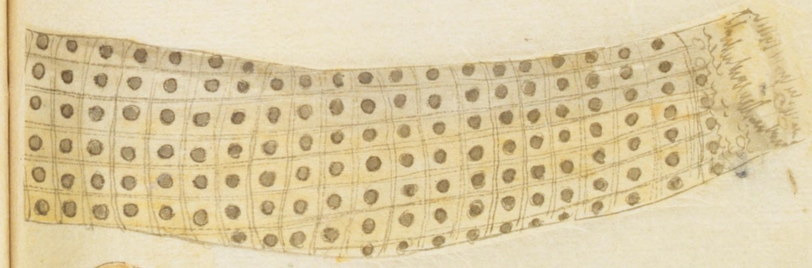
土蜂　福州府志

和名ゴカイ　又海ミヽズ潮ノサス処ト河水トノ境ニ生ズ泥汁中ヲ掘取形扁ニメ両辺ノ細キ口アリ歯アリ人ノ手ヲ咬ム漁人沙糖水ニテ一個ヲ丸呑ニメ淋病ヲ治ト云黒焼ヲ用テ久シキ淋痛瘡ガタキモノニ用テ神効アリト云八九月ノ際此物沙中ヨリ出テ浮流ルヽアリ細ニテスクヒ取冬月ヨリ春ニ至ル迄ノ魚ヲ釣餌トス其外年中此物ヲ用ユ老タル者ハ形大ニメ四五寸ニ及フ延レハ長ク縮レハ太ク短レ蛭ノ如シ小毒アリトゾ

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 017
国立国会図書館

海老同穴（又海ヘチマ）

長州彦嶺分長州清末海中所産ニメ其地ノ方言ナリ蜘蛛（クリカ）ノ異品ニシテ雌雄一所ニ居テ巣ノ上下ニ竅アリテ出入ス故ニ此称アリ此巣ノ質ハ海綿ノ如ク蚕ノ名ニ似タリ苧麻絲ニテ織成スモノ如シ手ザハリ軟ニシテ俗ニ云メリヤスノ如シエニ図スル細カキ圓点ノ処ハ蓋シ小円竅ナリ上端ニ袋アリ細毛絨銀色ナス試ニ火中ニ投入ルニ焼焦スルノミニシテ質尤浣布ニ似タリ是又人ノ識（シル）サルモノナレ尼此ヘチマト呼ブ此海ヘチマハ薬品舎ニ出ルヲアリテ偶見ルモノナレ尼此蜘蛛ノ造ル巣ナルヲ知ラス今茲ニ親ク目撃シテ始テコニ一識ヲ博フス此モノ文政壬午秋冬故堀田侯惠贈セラルルモノナリ　栗丹洲誌



ヲモテ

海中産ザリガニノ造成セル巣ナリ或云海中ニ此物生メ後ニヱビ雄雄来テ寄居メ我室トス此エビヲ寄生蝦（ヤドリエビ）トユフ空殻ノ螺中ニ宿ヲ假借スル寄居虫ノ其意同シト云ヘリ此巣ハ此雌雄カニ作レルモノト云ハ尼顧フニ此小蟹ニ巧ミアラサルベシ友人芝陽ニ見セ評セラルルニ蜘蛛異品トセリ

ウラ

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10-018
国立国会図書館

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10-019
国立国会図書館

紫稍花

寛政六甲寅夏月　江刕鵜鶘湖産

中心ハ芦薑ナリ紫稍ノ花ハ網目弔ノ條下ニ
出逅江湖水ノ邊方言カニクソ芦竹枝上ニ着
ク狀蒲穗ノ如シ灰色ナリ陳自明婦人良方云
紫稍花生湖澤中乃魚蝦生卵子竹木之上
狀如糖澱去水用之トアリ

章魚　タコ

タコノ陸地ヲ行クモノ
前ニ脚ヲ伸テ后身ヲ
進マシム恰モシヤクトリ虫
ニ似タリト云

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 020
国立国会図書館

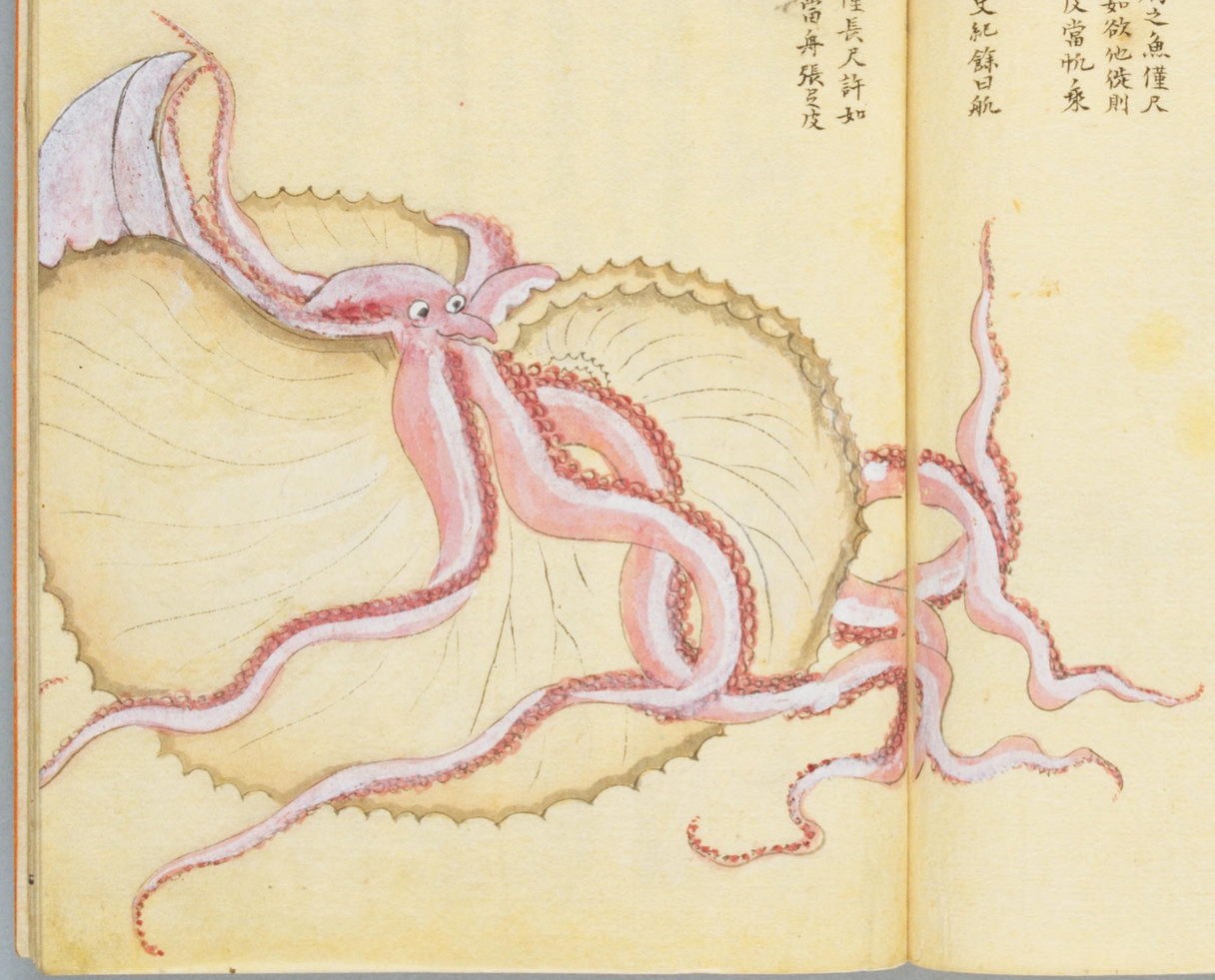
肥前天草産

金章魚　漢名蜜蟢

華夷異魚考寧波府志及典籍便覧ニ堅潮一名蜜蟢ト云モノ是也狀イヒダコニ似テ小サク腹小サク空虚ニノ餅ノ如シ足細長クタ蜘蛛ニ似タリ小ナルモノ寸許丹後但馬越前加賀ニタクノトルモノ也拙按ニタクモダコト云モノ章魚ノ初生ナルベシ又一種別極テ小ナルモノカ未詳四國海濱ニモアリ乾テ四方ニ寄贈ル食テ味美ナリ

職方外記云一種介屬之魚僅尺許有殼六足々有皮如欹他徙則竪半殼當舟張足皮當帆乘風而行名曰舡魚

龍威秘書卷九譯史紀餘曰舡魚六足行殼有皮僅長尺許如欹他徙則竪半殼當舟張足皮當帆乘風而去



栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 021
国立国会図書館

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10-022

国立国会図書館

舡魚　蛮名　ヒソセナーテリス　右ノ図蛮書落立茅篤中ニアリ直ニ抄出ス

本邦俗ニ章魚船ト呼一名貝章魚ト云此介殻ヲ人品ニ入ル紀州ニテ葵介ト云小ナルヲヒ姫介ト云諸州ノ海中ヨリ産ス大ナルハ六七寸小ナル者ニ三寸純白ニメ形鸚鵡螺ノ如ク薄脆玲瓏恰硝子ヲ以テ製造スルモノニ似タリ文理アリテ尾瓏ヲナス畧秋海棠葉ノ紋脈ニ彷彿愛玩スルニ耐タリ中ニ一章魚ノ小ナルモノコレニ寄居ス六手ヲ殻肩ニ出シ両足ヲ殻後ニツキハリテ櫂竿ノ象ヲナス海面ヲ游行スルヿ自在ナリ真ニ奇物ナリ此章魚ハ外來ノモノニ非ス此介ノ肉ナリ経月大ナルニ随テ此介モ又大ニナルモノ也章魚ノ船ニ乗タルニ似タルニ因テ此名アリ往年津輕海濱ニ此物一日數百群ヲナスヿアリテ寄来ル人多クコレヲトル然レドモ怪テ食フモノナシ試ニ煮テ大ニ喫テ喰ハシムルニ皆煩悶苦痛ノ体ナリ因テ有毒ノモノト知漁人偶得ルヿアレハ則章魚ニ乗テ殻ノミヲ採リテ以テ珎玩トメ四方ニ寄ス然レドモ其殻モロク碎ケ易ク久シク用ユルニタヘス

夫天地ノ大群彙ノ夥凡日ニ所化興蠢尊有生豈得盡窮ヿ数哉農皇ノ嘗ヿ艱乎草木也千百年ノ下人得識其良毒矣而至ニ乎二十餘種而已李時珍ノ撰綱目其分晝閉晝却行反行連行紆行者ヲ彼胎卵風湿化生ノ異状至一百餘種多則多矣自其大者而歎ヿ罕未以至甚其十一也図像実本瑞見所手写実多図ニ寒

言皆所其目撃者也細瞻其形状則羽毛鱗爪保神
彩可掬以活物照之或物眩於其假真哉寫真之妙
可謂至矣現見博治之士也抽輿之所載鳥獣
草木農皇之所未嘗試時珍之所未嘗識而
能詳其形状能辨其功害其多至今近如精其
掌故乎於此乎靡言諸大海之餘波及枝流之
小鮮也試以西洋之學文琊其祖子猶其又無
世相踈而塵窮一物之理者比之其功豈渺之哉
能然以一人之力窮天地之大若曰衰多之微綱
羅無遺者則予之所不識也而其為済世之
一助未不少云
文化辛亥春日

丹州翁者出身蓋水老人嗣栗本氏
登列内班傍通赭鞭之學為其人寛
宏飲裕著與世輩不馳騁以是人或
為迂矣予所贊叩之博洽強識考證明
確辨論生風書満一物聽一事依々首
嘉色更如受賜諾於撰之以充他日彙

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10-024
国立国会図書館

攻琢青黄之鵰乃至禽獸蟲魚寫
其真尤精緻毋書家能休所企及以
今觀之蓋醫官中之偉人矣頃日得拿
翁譜一部是翁親視目擊稿以備
遺忘去歲冊一編著述也披閱之益
觀翁積累篤志焉因使兒輩摸
寫之以具千祭中題一言於篇
末云爾嘉永二年己酉夏日樗宇
安一并書

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10-025
国立国会図書館

そ
10
19

大勝亮好庵氏所蔵ノ写生図ヲ購得シ栗本鋤雲氏
蔵本ノ原稿ヲ借覧シ三橋生ヲシテ其不足ヲ補写
セシメ自ラ一校ヲ
明治十二年十月十一日　曲直瀬愛識

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 026
国立国会図書館

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 10- 027
国立国会図書館